

## 社会との関わり

### 岩倉市総合体育館のネーミングライツを取得 アデリア総合体育文化センターとして地域に貢献

本社所在地（愛知県岩倉市）にある岩倉市総合文化センターは、成人式やいわくら市民ふれ愛まつりなど、多くの地域行事で利用される地元住民のシンボリックな施設です。当社は同施設のネーミングライツ（命名権）を取得し、2023年4月1日から5年間、食器ブランド「アデリア」を施設名に冠した「アデリア総合体育文化センター」として運営されことになりました。今後も行政と一体となり地域社会の発展に貢献していきます。



外壁にアデリアのブランド名がつけられ「アデリア総合体育文化センター」に



ネーミングライツ付与契約締結式：岩倉市長と石塚社長（向かって右）

### 愛知県市長会が岩倉工場を視察

2022年10月4日、岩倉工場において愛知県市長会による工場視察を受け入れました。愛知県知事や県下の各市市長が来社され、ガラスびん製造工程に沿った作業説明とショールームで当社の製品について説明を行いました。



ガラスびん製造工程の見学

### グループ会社の主な取り組み

#### 鳴海製陶(株)

##### ・食器を通じた子育て支援

2012年から子ども食器の売り上げの一部を、認定NPO法人フローレンスに寄付を継続しています。

##### ・ピンクリボン運動\*支援

2012年から「フェリシータ!」シリーズの売り上げの一部を認定NPO法人乳房健康研究会に寄付を継続しています。

\*乳がんの早期発見・治療を目指す啓発運動

##### ・名古屋フランス料理研究会活動

フランス料理の技術向上を目指して食文化の高揚に努めることを目的とする研究会で、1982年発足以来、事務局として活動を支援しました。

詳しくは鳴海製陶のホームページ内「社会の課題解決に取り組み、食文化発展に貢献を」で紹介しています。

WEB

鳴海製陶「社会の課題解決に取り組み、食文化発展に貢献を」  
[https://www.narumi.co.jp/sustainable-development/sustainable\\_02/](https://www.narumi.co.jp/sustainable-development/sustainable_02/)



#### 久金属工業(株)

本社工場が「国登録有形文化財」に登録されています。近代以降の工業化とともに発展・拡大してきた大阪の市街地形成史を理解するうえでも重要な建築物として、2022年11月に大阪市教育委員会主催の見学会が開催され、約100名の市民参加がありました。

WEB 本社屋の紹介

<https://www.hisakinzoku.co.jp/structure/>



#### 北洋硝子(株)

青森の海を守る活動を推進するプロジェクト「CHANGE FOR THE BLUE in 青森県」\*に賛同し、青森県が実施する海岸漂着物の発生抑制対策事業に対して、共同で開発したコラボレーション商品「津軽びいどろ あおもりの海 盃セット」の収益の一部を運営団体に寄付しました。さらに2023年3月からはコラボレーション商品の第二弾として「あおもりの海 風鈴」を発売しました。

\*日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、海と日本プロジェクトin青森県実行委員会が運営しています

WEB 商品紹介サイト

<https://tsugaruvidro.jp/item/pickup/pickup040.html>



### 特集「津軽びいどろ」北洋硝子(株)

郷土の伝統工芸品で青森県を活性化

## 津軽びいどろ

「四季を感じるハンドメイドガラス」をコンセプトにした色彩豊かな美しさが特徴の「津軽びいどろ」。

いまでは青森県を代表する伝統工芸品となりましたが、創業は色も形もシンプルな漁具である浮玉製造からでした。



### 津軽びいどろのはじまり

実際に使われていた浮玉



### 漁業用の浮玉から伝統工芸品へ

「津軽びいどろ」を製造する北洋硝子(株)は、青森県名産のホタテ養殖の目印となるガラス製のウキ(浮玉)を職人たちの宙吹き技法で製造する会社でした。その高い品質が評価され、一時期は浮玉のトップメーカーになりましたが、安価に大量生産できるプラスチック製にその座を奪われてしまいます。廃業するガラス工場が多くあるなか、浮玉製造で培った宙吹き技法を活用し花びんやコップなど普段使いできる工芸品へ事業を転換しました。その後、石塚硝子グループの一員となり量産のノウハウを活かしながら、手づくりのよさを活かした色鮮やかな「津軽びいどろ」を生み出してきました。

また、漁師の高齢化による廃業で捨て場に困っていたガラス製の浮玉を北洋硝子(株)が直接回収し、製品の素材として再利用して職人の技術で誕生した「DOUBLE F -UKIDAMA EDITION-」シリーズも2023年に発売しています。この浮玉のアップサイクルは北洋硝子(株)の新しい取り組みとして今後も発展させていきます。



「DOUBLE F -UKIDAMA EDITION-」シリーズ

### 津軽びいどろのこれから

### 津軽びいどろを通じて地元・青森県の魅力を世界に発信していきます

縁あって出身地である青森の伝統工芸品「津軽びいどろ」ブランド初のオフィシャルショップ立ち上げという、またない機会に関わることができました。「日々の暮らしに彩りを。グラスにうつる、日本の四季」というショップコンセプトのもと、青森をはじめとする日本の原風景を思い浮かべながら普段使いしていただける津軽びいどろの魅力を残すことなく伝えるべく、カタログのほぼ全商品を取り扱っています。また、青森県内の酒蔵と酒器を共同開発するなど、新商品展開にも取り組みを広げ、津軽びいどろを軸に故郷青森の魅力を世界に発信していきたいと考えています。



津軽びいどろ 東京ミッドタウン八重洲店 店長 井筒 栄吉

### 津軽びいどろの歴史

1949年	漁業用の浮玉製造会社として創業
1973年	品質の高さが評判を呼び国内生産高トップに
1970年代半ば	プラスチック製浮玉が主流に。浮玉製造で培った技術で花びんやコップの製造へ応用
1977年	デザインを凝らしたさまざまな津軽びいどろが誕生
1996年	津軽びいどろが青森県の伝統工芸品「第一号」に認定
2023年	東京ミッドタウン八重洲に直営ショップをオープン
2023年	浮玉のアップサイクル製品となる「DOUBLE F -UKIDAMA EDITION-」シリーズの販売開始